

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 5月 12日

事業所名 ほまれっこ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	利用者の安全確保に努めている。	活動内容や利用者の障害特性などで部屋の利用方法を変えていく。
	2 職員の配置数は適切である	100%	0%	個別対応で職員配置している。	今後利用者が増えることを念頭に募集をしている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	75%	0%	段差があるところはスロープを設置している。	常に危険がないか点検している。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	75%	0%	ケース会議等で行っている。	全パート職員への参画にはなっていないので今後行っていきたい。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	連絡帳、面談等で意見を聞いている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページで公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%	4半期に1度評価を受けている。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	内部研修、外部研修を積極的に行っている。	外部研修はコロナ禍で減ったが、Webでも受けていきたい。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	保護者に要望を聞いている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	使用している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	連携を取って作成している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	固定化しないように工夫している。	工作、運動、屋外活動、調理活動などバラエティーにとんだプログラムを行っている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	設定している。	平日は短時間でできることを行い、遠足やプールなど休日や長期休暇などにしかできないことを行っている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個人を大切にしながら集団活動を行っている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	当日のプログラムを作成し、それに基づき確認している。	プログラムでの確認で不足することは支援の事前に全体で口頭確認するようにしている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	変則勤務のため全体では振り返りが難しい時がある。	翌日に職員と確認したり、業務日誌を読むことで行うようにしている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	毎日業務日誌を記録している。	日々の業務日誌、個人日誌を記録し、支援計画に反映している。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	毎週の会議で必要なケースの検討を行っている。	その都度必要な個所を見直している。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	ガイドラインを確認している。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者が参画している。	関係機関と連携している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	マチコミメール、家族からの連絡、送迎時に先生と引継ぎを行っている。	コロナ禍で支援学校の事業所説明会が開催されず、メールでの連絡になっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%	医療ケア児の利用は行っていない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	75%	0%	現在、中高生の利用が多いため、直近では行っていない。	低学年の受け入れも視野に、情報共有や相互理解に努めていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	75%	0%	必要があれば行っている。	卒業後の受け入れ先から情報提供を希望されれば行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	75%	0%	あれば行っている。	最近ではコロナ禍で行われていない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	25%	あれば行っている。	最近ではコロナ禍で行われていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	50%	0%	あれば行っている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	持っている。	最近ではコロナ禍で行っていないが、以前は家族懇談会を開催していた。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	75%	0%	相談を受けてアドバイスをしている。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	行っている。	契約時に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	行っている。	連絡帳や電話や面談時に相談に応じている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	2か月に1回家族懇談会を開催している。	現在はコロナ禍で開催できていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情対応窓口を設置している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	1ヶ月に一回法人ニュース、2ヶ月に一回ほまっれこニュースを発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	注意している。	外部との会議等で情報を共有する場合は保護者に許可を得ている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	利用者、家族に応じた伝達方法をとっている。	写真、イラスト、文字などわかりやすく説明している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	行っている。	コロナ禍で行事が少なくなっているが、月2回の陶芸教室で場所を提供している。法人でバザーを行っている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	50%	0%	緊急時、感染症マニュアルはあるが防犯マニュアルはない。	防犯マニュアルの作成を早急に行うとともに、保護者への周知を徹底していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	避難訓練を行っている。	事業所単独で行っているのと、隣接の成人の事業所と合同でも行っている。子ども達と避難場所までのルートを確認を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	法人研修として外部講師を招いて研修を行っている。	虐待防止委員会を設置して検討を進めていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	同意書を取り、個別支援計画に記載している。	突発的に身体拘束を取った場合、事後に振り返りを行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	保護者から情報提供をいただいている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	文書に残している。	事故報告、にやりはっと、ケアレスミスを職員間で会議で共有している。